

2025年度入試

# 入学試験問題集

【経営学部 経営学科】



TOKYO SEITOKU  
UNIVERSITY

東京成徳大学

## 目 次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 総合型選抜 9月入試 小論文          | 1  |
| 総合型選抜 10月入試 小論文         | 3  |
| 総合型選抜 12月入試 小論文         | 5  |
| 学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文 | 7  |
| 外国人留学生入試 小論文            | 8  |
| 一般選抜 D日程入試 小論文          | 10 |
| 出題意図                    | 12 |

※一般選抜 C 日程入試は、志願者がいなかったため、実施していません。

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、  
「2025 年度入試問題集 一般選抜 A 日程入試・  
B 日程入試・C 日程入試」に掲載しています。

# ●総合型選抜 9月入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下は、日本の環境問題について説明した文章である。課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

### 【課題文】

我が国は2050年までにネット・ゼロ、すなわち温室効果ガスの「排出量」から、森林吸収源等による「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを宣言しました。ネット・ゼロ達成のためには、国や地方公共団体、企業等という構成単位に加えて私たち生活者一人一人も、今までの慣れ親しんだライフスタイルを変える必要があります。我が国の温室効果ガス排出量を消費ベースで見ると、全体の約（A）割が家計によるものという報告があり、その必要性が明らかと言えます。

今までの「大量生産・大量消費・大量廃棄」型のライフスタイルが、私たちの衣食住を支える「自然」がもたらす様々な恵みである「生態系サービス」を劣化させていると言われています。グリーン社会実現のためには、「住まい」「移動」「食」「ファッション」の側面から、温室効果ガスの排出量を減らし、廃棄物を減らして3R＋Renewableによる資源循環や自然資源を大事にする視点でライフスタイルを変えていく必要があります。

（略）

ファッション産業は、世界全体で水を大量に消費し、温室効果ガスを大量に排出するなど、近年、環境負荷が大きい産業と指摘されるようになりました。

また、生産過程における労働環境の不透明性も課題とされています。経済産業省の「2030年に向けた繊維産業の（a）てんぼう（繊維ビジョン）」によると、我が国の衣料品の約98%が輸入であり、このような環境負荷と労働問題の大部分が海外で発生しています。2022年度に環境省が実施した調査では、1年間に新たに国内に供給される量の約92%が使用後に手放され、約64%はリユースもリサイクルもされずに廃棄されています。このような現状を変革するため、サステナブルファッションの推進が求められています。我が国においても、（b）てきせいな在庫管理とリペア・アップサイクル等による廃棄の削減、回収から製品化までのリサイクルの仕組みづくり等の企業の取組が進んでいます。2021年8月に消費者庁、経済産業省、環境省による「サステナブルファッションの推進に向けた関係省庁連携会議」を立ち上げ、政府（c）一丸となって取り組む体制を構築、連携をしています。消費者庁は消費者向けの（d）啓発及び人材育成、経済産業省は繊維リサイクル等の技術開発の支援及び環境配慮設計の在り方の検討、環境省は企業と家庭から排出される衣類の量及び回収方法の現状把握、使用済み衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業の実施等、各省庁の視点から関連する取組を進めています。

さらに、経済産業省と環境省は、2023年1月に「繊維製品における資源循環システム検討会」を立ち上げ、国内における繊維製品の回収方法、回収した繊維製品の選別・リサイクル技術の開発、設計・製造時の環境配慮設計、販売時における生活者への理解促進等についての課題と取組の方向性を議論し、同年9月にその報告書を取りまとめました。また、経済産業省では、2024年3月に「繊維製品の環境配慮設計ガイドライン」を策定しました。

### （1）ファッションと環境の現状

#### ア 海外で生まれ我が国で消費される服の一生

我が国で売られている衣料品の約98%は海外からの輸入品です。海外で作られた衣料品は我が国に輸送され、販売・利用されて、回収・廃棄されます。こうした原材料の調達、生地・衣服の製造、そして輸送から廃棄に至るまで、それぞれの段階で環境に負荷が生じています。海外における生産は、数多くの工場や企業によって分業されているため、環境負荷の実態や全容の把握が困難な状態となっています。

#### イ 生産時における産業全体の環境負荷（原材料調達から店頭へ届くまで）

私たちが店頭で手に取る一着一着の洋服、これら服の製造プロセスではCO<sub>2</sub>が排出されます。また、原料となる植物の栽培や染色等で大量の水が使われ、生産過程で余った生地等の廃棄物も出ます。服一着を作るにも多くの資源が必要となりますが、大量に衣服が生産されている昨今、その環境負荷は大きくなっています。

#### ウ 一人当たり（年間平均）の衣服消費・利用状況

手放す枚数よりも購入枚数の方が多く、一年間一回も着られていない服が一人当たり35着もあります。

#### エ 手放した後の服の行方

生活者が手放した服がリユース・リサイクルを通じて再活用される割合の合計は約34%となっており、年々その割合は高まっていますが、さらにリユース・リサイクルを推進する必要があります。

#### オ 捨てられた服の行方

家庭から服がごみとして廃棄された場合、再資源化される割合は5%ほどでほとんどはそのまま焼却・埋め立て処分されます。その量は年間で約44.5万トン。この数値を換算すると大型トラック約120台分を毎日焼却・埋め立てしていることになります。

出典：『令和6年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』

<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r06/pdf.html>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

〔問題1〕 以下の問いに答えなさい。

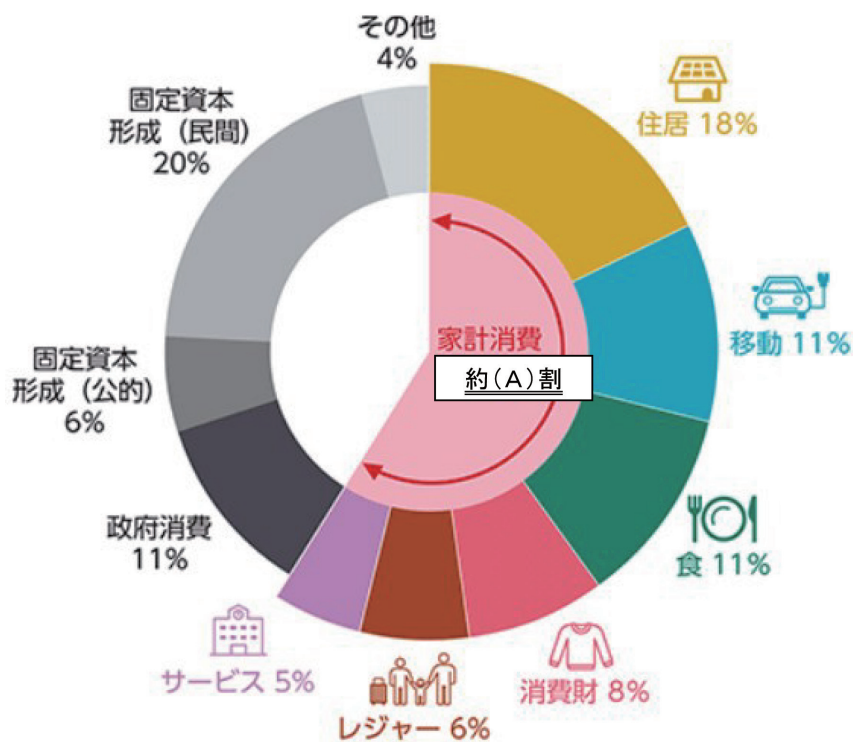
- (1) 課題文の下線 a、b のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 c、d の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

〔問題2〕 資料に示される値をもとに、課題文中の二重線 (A) に当てはまる数値を一桁の数字で解答欄に記しなさい。

〔問題3〕

サステナブルファッションを実現していくためには、環境配慮製品の生産者を積極的に支援するとともに、生活者も一緒になって、「適量生産・適量購入・循環利用」へ転換させていくことが大切であると考えられています。課題文を参考にして、サステナブルファッションを実現していくため、生活者として、どのような取り組みをすればよいか、500 字以内で論じなさい。

〔資料〕 消費ベースでの日本のライフサイクル温室効果ガスの排出量



資料：南斉規介（2019）産業連関表による環境負荷原単位データブック（3EID）（国立環境研究所）、Nansai et al.（2020）Resources, Conservation & Recycling 152 104525、総務省（2015）平成 27 年産業連関表に基づき国立環境研究所及び地球環境戦略研究機関（IGES）にて推計  
※各項目は、我が国で消費・固定資本形成される製品・サービスごとのライフサイクル（資源の採取、素材の加工、製品の製造、流通、小売、使用、廃棄）において生じる温室効果ガス排出量（カーボンフットプリント）を算定し、合算したもの（国内の生産ベースの直接排出量と一致しない。）。

出典：『令和 6 年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』

[https:// www.env.go.jp/policy/hakusyo/r06/pdf.html](https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r06/pdf.html)

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

# ●総合型選抜 10 月入試

## 【小論文】（試験時間：60 分）

以下は、食品ロス問題について説明した文章である。課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

### 〔課題文〕

#### 食品ロスを取り巻く状況

世界では、「世界全体で人の消費向けに生産された食料」のおよそ 3 分の 1 に当たる約 13 億トンが失われ、あるいは廃棄されているなど、食料問題は地球規模の重大な問題であるといえます。その一方で、世界の人口は、2019 年の 77 億人から、2030 年に 85 億人（10%増）、2050 年には 97 億人（26%増）、2100 年には 109 億人（42%増）に達すると予測されており、2018 年には、9 分の 1 に当たる約 8 億人が（a）飢餓状態にあるといわれています。また、食品はその生産から廃棄に至るまで、多量のエネルギーを消費するなど環境問題とも密接に関連しています。

日本では、2017 年度には食品ロスが 612 万トン発生していると推計されています。これは、1 日当たり大型（10 トン）トラック約 1,677 台分に相当し、国民一人当たり換算すると、1 日当たり約 132g であり、茶碗 1 杯分の御飯の量に相当します。世界的な人口増加等による食料需要の増大、気候変動による生産減少等、国内外の様々な要因が食料供給に影響を及ぼしている可能性があり、食料の安定供給に対する国民の不安も高まっています。このような中、国内の食料消費が国産でどの程度（b）賄えているかを示す食料自給率は、2018 年度にはカロリーベースで 37%となっており、食品ロス削減は貴重な食料を有効活用するという意味で、重要な取組といえます。

また、食品ロスとなってしまった食品は、飼料や肥料として再生利用され、それも困難な場合には焼却等により廃棄されることになりますが、2018 年度に市区町村及び一部事務組合が一般廃棄物の処理に要した経費は、2 兆 910 億円に上ります。なお、2017 年度には、家庭系収集ごみに対する食品廃棄物の発生量の割合は、31.5%であり、食品廃棄物に対する食品ロス量の割合は 34.9%と推計されています。

このように、食品ロスは資源が無駄に消費されるだけでなく、排出されるごみが増え、それを処理するための地方公共団体のごみ処理費用等の社会的コストの増加にもつながることから、食品ロスの削減は、社会的コストを最終的に負担している国民の負担減にもつながる可能性があります。また、食費が家計に占める割合は消費支出の 4 分の 1 を超えていることから、家庭での食品ロスを減らすことは、家計負担減にもつながると考えられます。さらに、食品関連事業者においても食品ロスを減らすことができれば、その分製造・流通・販売・廃棄コストを減らすことができます。

加えて、多くの食品ロスが発生している一方で、日本では、人口のおよそ 6 分の 1 に当たる人が相対的（c）ひんこんといわれる状態にあるといわれています。

（中略）

#### 家庭での消費段階

食品ロスの約 46%に当たる 284 万トンは家庭から発生していると推計されています。食品のライフサイクルの後半に当たる家庭での消費段階においては、食品ロスの発生要因は（d）たきにわたるため、それぞれの要因に合った様々な対策が考えられます。同時に、消費者一人一人の意識と行動に委ねられている部分もあるため、食品ロスを削減していくためには、各々の消費者が、日常生活の中で食品ロスが社会的な課題であることを適切に理解・把握し、食材や保存、調理に関する日常生活の知識を始めとした食品ロスの削減のための知識を身に付け、実際に行動に移すことが大切であるといえます。

家庭においては、買ったりもらったりした食品が使い切れなかった場合や、保存している間に賞味期限・消費期限が切れてしまった場合等に食品ロスが発生します。家庭系食品ロスの内訳をみると、「食べ残し」が最も多く、次いで「直接廃棄」、「過剰除去」となっています。

また、消費者庁が行った実証調査によれば、家庭で捨てられやすい食品は、「主食（ご飯、パン、麺類）」、「野菜」、「副菜」の順に多く、捨ててしまう理由は、「食べ残した」、「傷んでいた」、「賞味期限切れ」、「消費期限切れ」の順に多いことが分かりました（いずれも飲料を除く場合。）。

（E）これらの家庭で発生する食品ロスを減らしていくためには、それぞれの生活スタイルに合った方法で、行動に移していくことが大切です。ここでは、消費者による食品の消費行動を「買物」、「保存」、「調理」の三つの段階に分けて分析します。

出典：『令和 2 年版 消費者白書』

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_research/white\\_paper/2020/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/2020/)

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

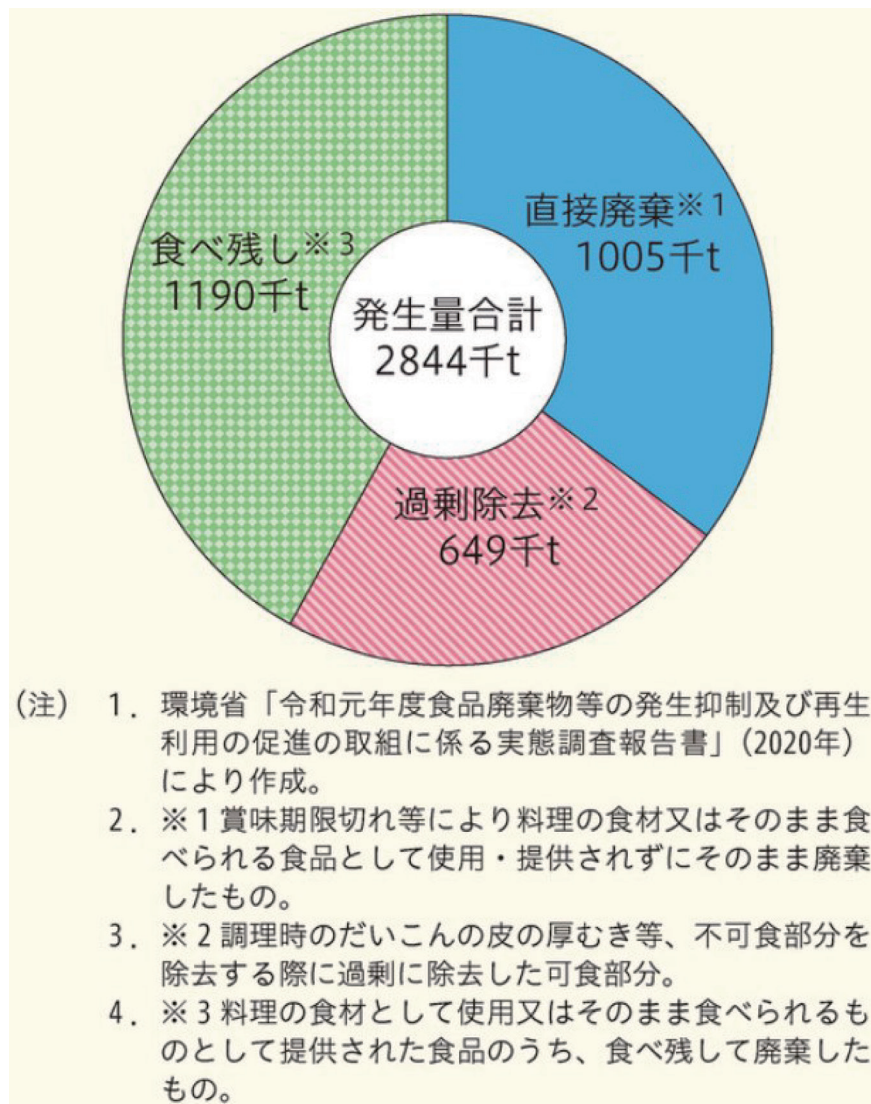
〔問題1〕 以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 a、b の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。  
(2) 課題文の下線 c、d のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。

〔問題2〕 資料に基づき、家庭系食品ロスの発生量合計のうち、食べ残しが占める割合（％）を、2桁の数字で解答欄に記しなさい。

〔問題3〕 二重下線部（E）の指摘に対して、消費者はどのような行動を取ることが有効と考えられるか。課題文を参考にして、その行動について 500 字以内で論じなさい。

〔資料〕 家庭系食品ロスの内訳



出典：『令和2年版 消費者白書』  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_research/white\\_paper/2020/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/2020/)  
作問のため、一部の文言を削除した。

# ●総合型選抜 12月入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下は、日本の脱炭素問題について説明した文章である。課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

〔課題文〕

### （家庭部門の二酸化炭素排出動向）

近年、電力の二酸化炭素排出原単位の改善とともに、住宅の省エネルギー化や高効率な省エネルギー機器の普及により、エネルギー消費が減少し、二酸化炭素排出量が減少傾向となっている。しかし、2017年度は厳冬の影響により、2020年度はコロナ禍による在宅時間の増加等により、それぞれ対前年度比で排出量が増加した。

また、二酸化炭素排出の削減量（2019年度、対2013年度比）について、用途別の寄与度では、照明・家電製品等が約4分の3を占めている。

一方で、エネルギー消費の削減量（2019年度、対2013年度比）について同様に用途別に寄与度をみると、暖房が約（A）割を占めている。

（中略）

### （家計消費のカーボンフットプリント）

家計消費に伴う温室効果ガス排出の全体像を把握するためには、家計消費のカーボンフットプリントを考慮する必要がある。ここで、家計消費のカーボンフットプリントとは、一般家庭の最終消費によるものであり、消費者による製品やサービスの購入・使用に伴う一連の温室効果ガス排出を（a）捕捉すべく、原材料調達から加工、利用、廃棄に至る過程での排出量を考慮している。このため、家計による燃料使用など直接排出のみならず、購入した製品・サービスに伴う間接排出が含まれることとなり、家計（b）需要により排出される温室効果ガスの全体像を認識する観点で効果的である。国立環境研究所の推計によると、家計消費のカーボンフットプリントは我が国全体の約6割であり、このうち住居及び移動に関するもので約3割を占めていると推計されている。

### （住まいと移動のカーボンフットプリント削減に向けたアプローチ）

家計消費のカーボンフットプリント削減に向けて、住まい方や移動手段に加えて、暮らしを支える製品やサービス消費を含め、（B）これまでの日常生活のあり方を二酸化炭素排出削減の観点から見直すことによる脱炭素型ライフスタイルへの転換が重要である。特に、住まいと移動の側面から、「無駄を避ける（アボイド）」、「方法を変える（シフト）」、「環境配慮技術を活用する（インプルーブ）」の3つの視点を取り込むことが効果的である。

（中略）

### （脱炭素化と生活の質に関する人々の意識）

国民意識調査によれば、日常生活において、脱炭素に向けた行動を3人に1人が実施していると答えており、その理由・背景については、「一人一人の行動が重要だと思うから」が最も高く、「地球温暖化による大雨や熱帯夜の増加など悪い影響を（c）けねんしているから」とともに半数以上の人の行動理由となっていることがわかった。また、「地球温暖化は人類の活動によるものであり、私自身も脱炭素に向けた取組みを実践しなければならない」との考え方に約6割の人が賛同しており、脱炭素への取組みに対して、過半数の人が（d）ぎむを感じていると考えられる。また、同調査によれば、「脱炭素に向けた取組みは、暮らしを豊かにする」との考え方に賛同する人は40%、賛同しない人は40%であった一方で、「脱炭素に向けた取組みは、暮らしを不便にする」との考え方に賛同する人は37%、賛同しない人は45%であった。脱炭素に向けた取組みが個人の暮らしや生活の質に与える影響については、人々の意識が分かれていると考えられる。

また、国際比較調査によると、気候変動対策はおおむね生活の質を向上させる機会であるとの考え方に賛同した人は多くの国で過半数を超えているが、日本では少数派にとどまり、異なる傾向となった。

出典：『令和4年版 国土交通白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/hakusyo.mlit.r4.html>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

〔問題1〕以下の問いに答えなさい。

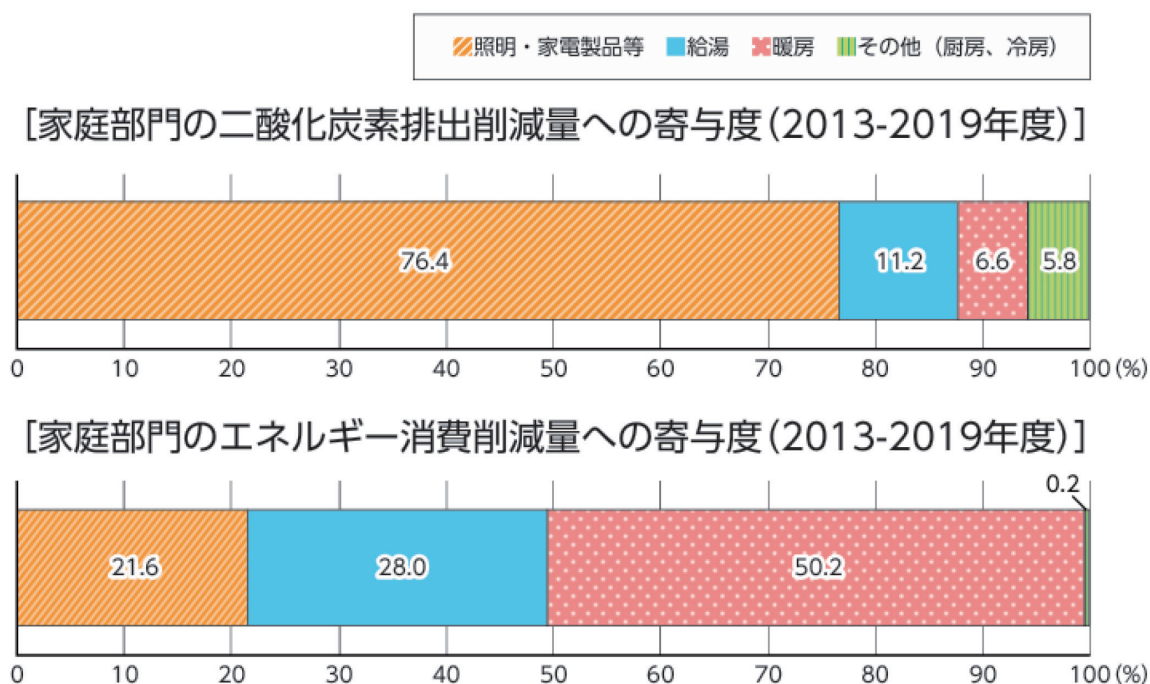
(1) 課題文の下線 a、b の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

(2) 課題文の下線 c、d のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。

〔問題2〕資料に基づき、(A) に当てはまる数値を、解答欄に記しなさい。

〔問題3〕二重下線部 (B) の指摘に対して、消費者はどのような行動を取ることが有効と考えられるか。課題文を参考にして、その行動について 500 字以内で論じなさい。

〔資料〕家庭部門の二酸化炭素排出削減量及びエネルギー消費削減量への用途別寄与度



資料) 環境省「2019 年度温室効果ガス排出量(確報値)」より国土交通省作成

出典:『令和4年版 国土交通白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/hakusyo.mlit.r4.html>

註釈: 寄与度

あるデータの構成要素となる項目の変化が、データ全体にどのくらい影響を与えているかを示す指標です。構成要素全ての寄与度の総和は、全体の成長率と一致します。

$$\text{寄与度} = \frac{\text{構成項目の増減値}}{\text{前期のデータ全体の値}}$$

出典: 総務省統計局『なるほど統計学園』

[https://www.stat.go.jp/naruhodo/10\\_tokucho/sonota.html](https://www.stat.go.jp/naruhodo/10_tokucho/sonota.html)

# ●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

## 【小論文】（試験時間：60 分）

以下は、日本のエシカル消費について説明した文章です。課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

### 【課題文】

より良い社会に向けて、地域の活性化や雇用等を含む人や社会・環境に配慮した消費行動である「エシカル消費」への関心が高まっています。

こうした消費行動の変化は、消費者市民社会の形成に向けたものとして位置付けられるものであり、持続可能な社会の形成に向けて大きな可能性を秘めています。そして、その実現のためには、消費行動の進化と事業者サイドの取組が相乗的に加速していくことが重要です。消費者庁では、2023 年度において、啓発用のパンフレット、ポスター、動画や学習教材等の学校や地域等での活用促進、事業者主催の普及啓発イベントへの積極的な参画のほか、特設サイトや SNS 等における情報発信の充実に向けた取組を進めています。

サステナブルファッション<sup>※1</sup>については、2023 年 11 月に消費者庁、経済産業省及び環境省による「サステナブルファッションの推進に向けた関係省庁連携会議」を開催し、今後の連携する取組について確認しました。消費者庁では、消費者の行動へんよう<sup>2</sup>を促すために、特設ページにおける情報発信の強化や、インフルエンサーとのれんけい<sup>3</sup>に取り組んでいます。

d、木材及び木材を原材料とする紙、家具等の製品については、地域及び地球環境の保全に資することを目的として制定された「合法伐採。木材等の流通及び利用の促進に関する法律」（平成 28 年法律第 48 号。以下「クリーンウッド法」という。）の規定に基づき、国内外の法令に適合して樹木が伐採されたかどうかを事業者が確認することが求められています<sup>※2</sup>。

出典：『令和 6 年版 消費者白書』

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_research/white\\_paper/assets/consumer\\_research\\_cms201\\_240614\\_31.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/assets/consumer_research_cms201_240614_31.pdf)

なお、作問のため一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

※ 1 サステナブルファッションとは、衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や関わる人・社会に配慮した取り組みのことです。具体的には、再生ポリエステル<sup>4</sup>の利用、マイクロ・プラスチックが出にくい生地<sup>5</sup>の開発、リペアサービスの提供、衣服のシェアリングサービスの展開、不用な衣服の回収、売れ残りを最小化するための在庫管理による生産の適正化などが挙げられます。

※ 2 このような法律が必要な理由は、違法な伐採を取り締まることで木材価格を維持するとともに、森林資源を保護し地球環境を守るためです。

### 【問題 1】

以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 b、c のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 a、e の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

### 【問題 2】

d に入る接続詞を、以下の 4 つの中から 1 つ選びなさい。

〔しかし、すなわち、また、したがって〕

### 【問題 3】

課題文を参考に、あなたが知っているエシカル消費に対する企業の取り組み、あるいは、消費者の取り組みを挙げ、それについて説明しなさい。その上で、その取り組みに対するあなたの評価を示しなさい（全体で 500 字以内）。

# ●外国人留学生入試

## 【小論文】（試験時間：60 分）

以下は、日本の脱炭素問題について説明した文章である。課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

〔課題文〕

### （家庭部門の二酸化炭素排出動向）

近年、電力の二酸化炭素排出原単位の改善とともに、住宅の省エネルギー化や高効率な省エネルギー機器の普及により、エネルギー消費が減少し、二酸化炭素排出量が減少傾向となっている。しかし、2017 年度は厳冬の影響により、2020 年度はコロナ禍による在宅時間の増加等により、それぞれ対前年度比で排出量が増加した。

また、二酸化炭素排出の削減量（2019 年度、対 2013 年度比）について、用途別の寄与度では、照明・家電製品等が約 4 分の 3 を占めている。

一方で、エネルギー消費の削減量（2019 年度、対 2013 年度比）について同様に用途別に寄与度をみると、暖房が約（A）割を占めている。

（中略）

### （家計消費のカーボンフットプリント）

家計消費に伴う温室効果ガス排出の全体像を把握するためには、家計消費のカーボンフットプリントを考慮する必要がある。ここで、家計消費のカーボンフットプリントとは、一般家庭の最終消費によるものであり、消費者による製品やサービスの購入・使用に伴う一連の温室効果ガス排出を（a）捕捉すべく、原材料調達から加工、利用、廃棄に至る過程での排出量を考慮している。このため、家計による燃料使用など直接排出のみならず、購入した製品・サービスに伴う間接排出が含まれることとなり、家計（b）需要により排出される温室効果ガスの全体像を認識する観点で効果的である。国立環境研究所の推計によると、家計消費のカーボンフットプリントは我が国全体の約 6 割であり、このうち住居及び移動に関するもので約 3 割を占めていると推計されている。

### （住まいと移動のカーボンフットプリント削減に向けたアプローチ）

家計消費のカーボンフットプリント削減に向けて、住まい方や移動手段に加えて、暮らしを支える製品やサービス消費を含め、（B）これまでの日常生活のあり方を二酸化炭素排出削減の観点から見直すことによる脱炭素型ライフスタイルへの転換が重要である。特に、住まいと移動の側面から、「無駄を避ける（アボイド）」、「方法を変える（シフト）」、「環境配慮技術を活用する（インプルーブ）」の 3 つの視点を取り込むことが効果的である。

（中略）

### （脱炭素化と生活の質に関する人々の意識）

国民意識調査によれば、日常生活において、脱炭素に向けた行動を 3 人に 1 人が実施していると答えており、その理由・背景については、「一人一人の行動が重要だと思うから」が最も高く、「地球温暖化による大雨や熱帯夜の増加など悪い影響を（c）けねんしているから」とともに半数以上の人の行動理由となっていることがわかった。また、「地球温暖化は人類の活動によるものであり、私自身も脱炭素に向けた取組みを実践しなければならない」との考え方に約 6 割の人が賛同しており、脱炭素への取組みに対して、過半数の人が（d）ぎむを感じていると考えられる。また、同調査によれば、「脱炭素に向けた取組みは、暮らしを豊かにする」との考え方に賛同する人は 40%、賛同しない人は 40%であった一方で、「脱炭素に向けた取組みは、暮らしを不便にする」との考え方に賛同する人は 37%、賛同しない人は 45%であった。脱炭素に向けた取組みが個人の暮らしや生活の質に与える影響については、人々の意識が分かれていると考えられる。

また、国際比較調査によると、気候変動対策はおおむね生活の質を向上させる機会であるとの考え方に賛同した人は多くの国で過半数を超えているが、日本では少数派にとどまり、異なる傾向となった。

出典：『令和 4 年版 国土交通白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/hakusyo.mlit.r4.html>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

〔問題1〕 以下の問いに答えなさい。

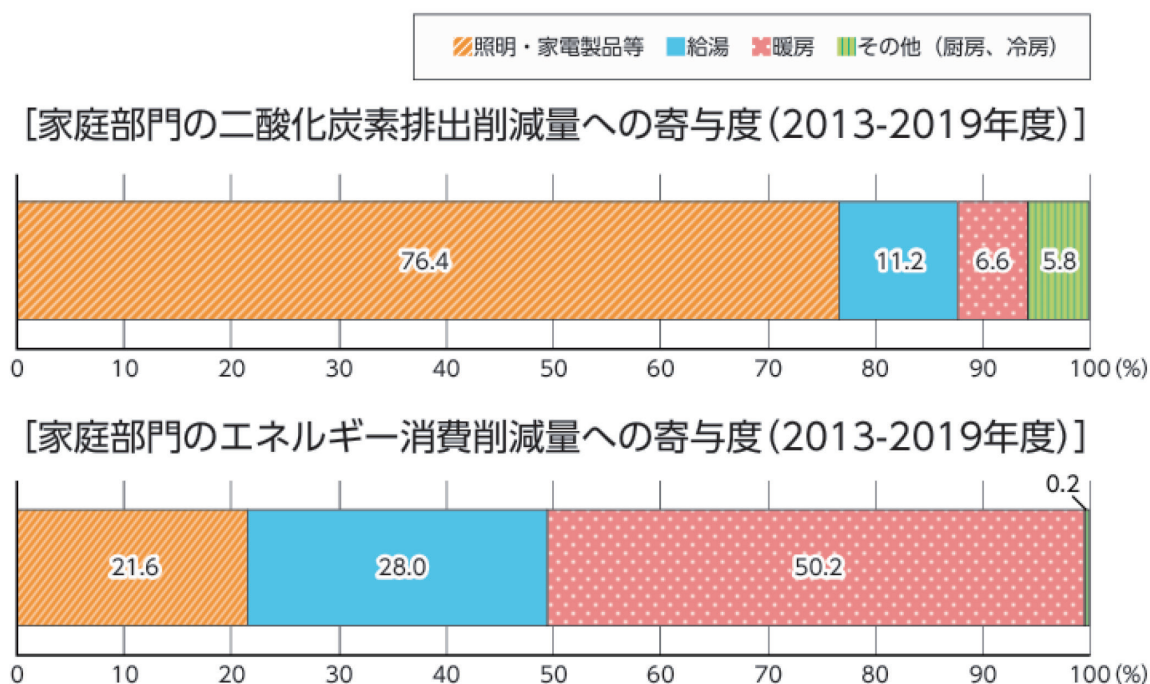
(1) 課題文の下線 a、b の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

(2) 課題文の下線 c、d のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。

〔問題2〕 資料に基づき、(A) に当てはまる数値を、解答欄に記しなさい。

〔問題3〕 二重下線部 (B) の指摘に対して、消費者はどのような行動を取ることが有効と考えられるか。課題文を参考にして、その行動について 400 字以内で論じなさい。

〔資料〕 家庭部門の二酸化炭素排出削減量及びエネルギー消費削減量への用途別寄与度



資料) 環境省「2019 年度温室効果ガス排出量(確報値)」より国土交通省作成

出典:『令和 4 年版 国土交通白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/hakusyo.mlit.r4.html>

註釈: 寄与度

あるデータの構成要素となる項目の変化が、データ全体にどのくらい影響を与えているかを示す指標です。構成要素全ての寄与度の総和は、全体の成長率と一致します。

$$\text{寄与度} = \frac{\text{構成項目の増減値}}{\text{前期のデータ全体の値}}$$

出典: 総務省統計局『なるほど統計学園』

[https://www.stat.go.jp/naruhodo/10\\_tokucho/sonota.html](https://www.stat.go.jp/naruhodo/10_tokucho/sonota.html)

# ●一般選抜 D日程入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下は、近年の日本における観光の動向を説明した文章である。課題文および資料を読み、後の設問に解答しなさい。

### 【課題文】

#### 訪日旅行の状況

訪日外国人旅行者数は、2019年までは、ビザの戦略的緩和や訪日外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充、CIQ体制<sup>(注)</sup>の充実といった施策を進めるとともに、航空・鉄道・港湾等の交通ネットワークの充実、多言語（a）ひょうきをはじめとする受入環境整備、魅力的なコンテンツの（b）ぞうせい、日本政府観光局等による訪日プロモーション等により、過去最高を更新していたが、2020年から2022年までの訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年間を通じて大きく減少した。訪日外国人旅行者数は、2022年6月の外国人観光客の受入再開、同年10月の水際（c）そちの大幅緩和等により徐々に回復しはじめ、2023年に入ってから東アジアを中心に大きく増加し、同年10月には2019年同月を超え、年間では2,507万人（2019年比21.4%減）となった。

2023年の訪日外国人旅行者数を国・地域別にみると、アジア主要市場からの訪日外国人旅行者数が1,949.5万人となり、全体の77.8%を占めた。東アジアでは、韓国が695.8万人と主要23市場のうちで最も多く、台湾（420.2万人）、中国（242.5万人）と続き、全体の62.6%を占めた。東南アジアは、ASEAN（東南アジア諸国連合）の主要6市場からの訪日外国人旅行者数が362.8万人となり、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナムからの旅行者数は過去最高を記録した。北米主要市場からの訪日外国人旅行者数は247.2万人となり、米国、カナダからの旅行者数は過去最高を記録した。欧州主要6市場からの訪日外国人旅行者数は121.3万人となった。オーストラリアからの訪日外国人旅行者数は61.3万人となった。その他の地域では、南米が9.9万人、アフリカが3.8万人であった。

2023年の訪日外国人旅行消費額は、5兆3,065億円（2019年比10.2%増）と過去最高となった。国籍・地域別にみると、台湾が最も大きく、次いで中国、韓国、米国、香港の順であった。2019年と比較すると、中国の構成比が低下した一方、韓国や米国等の構成比が上昇した。

2023年の訪日外国人旅行消費額を（d）ひもく別にみると、全体に占める割合では、宿泊費が34.6%と最も高かった。

#### 日本人国内旅行の状況

2023年の日本人一人当たりの国内宿泊旅行の回数は1.4回、日帰り旅行回数は1.3回、一人当たり宿泊数は2.3泊と、いずれも前年を上回った。

2023年の日本人の国内宿泊旅行者数は延べ2億8,135万人（2019年比9.7%減）、国内日帰り旅行者数は延べ2億1,623万人となった。

2023年の日本人国内旅行消費額は21.9兆円となった。このうち宿泊旅行の国内旅行消費額は17.8兆円、日帰り旅行の国内旅行消費額は4.1兆円となった。

2023年の日本人及び訪日外国人旅行者による日本国内における旅行消費額は、28.1兆円となった。このうち、日本人による旅行消費額は22.8兆円、訪日外国人旅行者による旅行消費額は5.3兆円であり、訪日外国人旅行者による旅行消費額の割合は  %となった。

### 【資料】日本国内における旅行消費額

|              | 2014年 | 15   | 16   | 17   | 18   | 19   | 20   | 21  | 22   | 23   |
|--------------|-------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|
| 日本人国内宿泊旅行    | 13.9  | 15.8 | 16.0 | 16.1 | 15.8 | 17.2 | 7.8  | 7.0 | 13.7 | 17.8 |
| 日本人国内日帰り旅行   | 4.5   | 4.6  | 4.9  | 5.0  | 4.7  | 4.8  | 2.2  | 2.2 | 3.4  | 4.1  |
| 日本人海外旅行（国内分） | 1.1   | 1.0  | 1.1  | 1.2  | 1.1  | 1.2  | 0.3  | 0.1 | 0.6  | 0.9  |
| 訪日外国人旅行      | 2.0   | 3.5  | 3.7  | 4.4  | 4.5  | 4.8  | 0.7  | 0.1 | 0.9  | 5.3  |
| 合計           | 21.6  | 24.8 | 25.8 | 26.7 | 26.1 | 27.9 | 11.0 | 9.4 | 18.7 | 28.1 |

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」及び「訪日外国人消費動向調査」に基づき作成。

注1：2020年から2022年までの「日本人海外旅行（国内分）」及び「訪日外国人旅行」は、新型コロナウイルス感染症の影響により試算値。

注2：四捨五入した値を表示しているため、個々の数値の合計は必ずしも総数と一致しない。

（注）CIQ体制は、税関（Customs）、出入国管理（Immigration）、検疫（Quarantine）の総称。

（出典）国土交通省『観光白書 令和6年版』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/file0000008.html>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

〔問題1〕 課題文の下線（a）～（d）のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。

〔問題2〕 課題文の空欄 ア にあてはまる数値を解答欄に記しなさい。なお、解答に際しては、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで算出すること。

〔問題3〕 2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の観光需要は大きく落ち込み、日本全国の観光地・産業は厳しい状況に置かれたが、2022年10月以降、需要が急速に回復し、全国各地の多くの観光地が賑わいを取り戻している。課題文を参考に、このような旅行や観光にかかわる問題や取り組みを挙げ、それに対するあなたの評価を示しなさい。（全体で500字以内）。

# ●出題意図

## 総合型選抜 9月入試【出題意図】

国全体で持続可能な社会を構築するためには、各々の地域において、その鍵となる地域循環共生圏の実装を進め、経済社会システム、ライフスタイル、技術といったあらゆる観点からのイノベーションを創出し、新たな成長を実現していくことが必要だと考えられている。受験生には、価格重視ではなく環境価値の適切な評価を通じ、相対的に環境負荷が低い製品やサービスの積極的な選択や、より環境に配慮した製品やサービスの創出を促進し、新たな需要を生む好循環を形成するにあたって、まずは当事者意識を持つこと、またこのような日常生活の身近な経験から社会課題へと関心を広げていくことを期待し、『令和6年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』より課題文を呈示した。そのうえで、本問題では、限られた資源を有効活用することにより、天然資源の利用及び加工による環境負荷の削減を実現し、大量生産・大量消費・大量廃棄型の生産や消費に代わる、持続可能で健康的な食生活やサステナブルファッションを実現していくための取り組みについて考察させた。

出典：『令和6年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』

[https:// www.env.go.jp/policy/hakusyo/r06/pdf.html](https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r06/pdf.html)

最終閲覧 2024 年 8 月 28 日、作問のため抜粋した。

### 〔問題1〕

基礎的な語彙力を問う。

#### 【解答】

- a, 展望
- b, 適正
- c, いちばん
- d, けいはい

### 〔問題2〕

基礎的な図の読解力および計算力を問う。

#### 【解答】6（割）

### 〔問題3〕

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文および資料の説明を組み合わせ、総合的に評価している程度を査定する。多様な情報から論理を組み立てる思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

## 総合型選抜 10月入試【出題意図】

---

食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことである。日本では、食品ロスは年間 472 万トンと推計されている。大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、食品ロスを減らすことが必要とされている。環境省および農林水産省は、食品廃棄物の発生抑制の重要性が高い業種について、食品リサイクル法に基づく「発生抑制の目標値」を設定し、食品ロスの削減を推進している。一方、食品ロスを発生させる要因の一つとして、消費者の過度な鮮度志向があるのではないかと考えられている。そのため、関係府省庁の連携のもと、消費者が食品ロスに対する認識をより高めて、消費行動を改善するような働きかけを行っている。

受験生には、当事者意識を持つこと、このような日常生活の身近な経験から社会課題へと関心を広げていくこと、を期待する。そこで『令和 2 年版 消費者白書』より課題文を呈示した。そのうえで、本問題では、限られた資源を有効活用することにより、環境への負荷を削減し、持続可能で健康的な食生活を実現していくための取り組みについて考察させた。

出典：『令和 2 年版 消費者白書』

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_research/white\\_paper/2020/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/2020/)

最終閲覧 2024 年 10 月 2 日、作問のため抜粋した。

〔問題 1〕

基礎的な語彙力を問う。

【解答】

- a, きが
- b, まかな
- c, 貧困
- d, 多岐

〔問題 2〕

基礎的な図の読解力および計算力を問う。

【解答】 42 または 41 (%)

〔問題 3〕

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既有的知識と課題文および資料の説明を組み合わせ、総合的に評価している程度を査定する。多様な情報から論理を組み立てる思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

## 総合型選抜 12月入試【出題意図】

---

地球温暖化の問題は、社会が取り組むべき喫緊の課題と言える。その主要原因として温室効果ガス、特に二酸化炭素の排出が考えられる。18世紀の産業革命以降、社会は石炭や石油などの化石燃料を大量に燃焼してきた。化石燃料には炭素を含んでおり、燃焼することで酸素と結びつき、二酸化炭素を排出する。これを抑制することが期待されている。個人においては、これまでの日常生活のあり方を見直し、脱炭素型ライフスタイルへ転換することが重要とされている。実際、国民意識調査によれば、日常生活において、脱炭素に向けた行動を3人に1人が実施していると答えている。

受験生には、当事者意識を持つこと、日常生活の身近な経験と社会課題とを関連付けて考察すること、を期待する。そこで『令和4年版 国土交通白書』より課題文を呈示した。そのうえで、本問題では、環境への負荷を削減し、持続可能な社会を実現していくための取り組みについて考察させた。

出典：『令和4年版 国土交通白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/hakusyo.mlit.r4.html>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2024年12月6日、作問のため抜粋した。

### [問題1]

基礎的な語彙力を問う。

#### 【解答】

- a, ほそく
- b, じゅうよう
- c, 懸念
- d, 義務

### [問題2]

基礎的な図の読解力を問う。

#### 【解答】5(割)

### [問題3]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文および資料の説明を組み合わせ、総合的に評価している程度を査定する。多様な情報から論理を組み立てる思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

## 学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

---

エシカル消費とは、人や社会・環境に配慮した消費行動をいう。たとえば、ファッションの分野では、衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて、地球環境や関わる人・社会に配慮する取り組みを行う、いわゆるサステナブルファッションがこれにあたる。持続可能な社会の形成のため、これからこのような取り組みがますます重要になっていく。

受験生には、①消費者として当事者意識を持つこと、②そこから社会課題へと関心を広げていくことを期待して、『令和6年版消費者白書』より課題文を呈示した。そのうえで、本問題では、限られた資源を有効活用することにより、環境への負荷を削減し、持続可能な社会を実現していくための取り組みについて考察させた。

出典：『令和6年版 消費者白書』

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_research/white\\_paper/assets/consumer\\_research\\_cms201\\_240614\\_31.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/assets/consumer_research_cms201_240614_31.pdf)  
最終閲覧 2024 年 11 月 2 日、作問のため抜粋した。

### 〔問題1〕

基礎的な語彙力を問う。

#### 【解答】

- a, そうじょう
- b, 変容
- c, 連携
- d, ばっさい

### 〔問題2〕

文章相互の関係を理解できているかを問う。

#### 【解答】 また

### 〔問題3〕

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既有的知識と課題文および資料の説明を組み合わせ、総合的に評価している程度を査定する。多様な情報から論理を組み立てる思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

## 外国人留学生入試【出題意図】

地球温暖化の問題は、社会が取り組むべき喫緊の課題と言える。その主要原因として温室効果ガス、特に二酸化炭素の排出が考えられる。18 世紀の産業革命以降、社会は石炭や石油などの化石燃料を大量に燃焼してきた。化石燃料には炭素を含んでおり、燃焼することで酸素と結びつき、二酸化炭素を排出する。これを抑制することが期待されている。個人においては、これまでの日常生活のあり方を見直し、脱炭素型ライフスタイルへ転換することが重要とされている。実際、国民意識調査によれば、日常生活において、脱炭素に向けた行動を 3 人に 1 人が実施していると答えている。

受験生には、当事者意識を持つこと、日常生活の身近な経験と社会課題とを関連付けて考察すること、を期待する。そこで『令和 4 年版 国土交通白書』より課題文を呈示した。そのうえで、本問題では、環境への負荷を削減し、持続可能な社会を実現していくための取り組みについて考察させた。

出典：『令和 4 年版 国土交通白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/hakusyo.mlit.r4.html>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2024 年 12 月 6 日、作問のため抜粋した。

### [問題 1]

基礎的な語彙力を問う。

#### 【解答】

- a, ほそく
- b, じゅうよう
- c, 懸念
- d, 義務

### [問題 2]

基礎的な図の読解力を問う。

#### 【解答】5 (割)

### [問題 3]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文および資料の説明を組み合わせ、総合的に評価している程度を査定する。多様な情報から論理を組み立てる思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

## 一般選抜 D日程入試【出題意図】

観光は、日本の力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野とされ、特にインバウンド需要については、人口減少や少子高齢化が進む中で、日本経済の成長や地域の持続的な発展に欠かせない要素として期待されている。新型コロナウイルス感染拡大の影響によって日本全国の観光地・産業は厳しい状況に置かれたものの、2022年10月以降には需要が急速に回復し、全国各地の多くの観光地が賑わいを取り戻している。なかでもインバウンド需要の回復については、東京をはじめとする三大都市圏に集中するなど地域によって偏在傾向がみられ、これにともない、さまざまな問題・課題が生じている。

受験生には、このような問題に対して当事者意識を持つこと、またそこから社会課題へと関心を広げていくことを期待して、『観光白書 令和6年版』より課題文を呈示したうえで、観光および観光産業にかかわる諸問題や取り組みについて考察させた。

出典：国土交通省『観光白書 令和6年版』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html>

最終閲覧 2025年2月8日、作問のため抜粋した。

### 〔問題1〕

基礎的な語彙力を問う。

#### 【解答】

- a. 表記
- b. 造成
- c. 措置
- d. 費目

### 〔問題2〕

基礎的な図表の読解力および計算力を問う。

#### 【解答】

18.9

### 〔問題3〕

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文および資料の説明を組み合わせ、総合的に評価している程度を査定する。多様な情報から論理を組み立てる思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。